



OpenOffice.org 1.0

インストールの手引き

目次

- 1. **OpenOffice.org インストールの手引き** 5
 - 使われているマークについて 5

- 2. **OpenOffice.org のインストール** 7
 - インストール方法の種類 7
 - 一般的なインストール情報 9
 - システム要件 9
 - インストールの準備 12

- 3. **シングルユーザーインストール** 13
 - インストールをはじめる前に 13
 - インストール開始 14
 - インストールの流れ 16
 - ようこそ 16
 - 重要な情報 17
 - ソフトウェア認可協定 18
 - ユーザーデータ 19
 - インストールの種類 20
 - コンポーネントの選択 21
 - インストールディレクトリ 23
 - インストールオプションの入力完了 24

ファイルの種類割り当て	25
Java(tm) ランタイム環境	26
ファイルのコピー	27
インストールの最後に	28
OpenOffice.org を起動する	29

4. マルチユーザー/ネットワークインストール 31

インストールフェーズ1	31
ワークステーションインストール	43

5. 付録 57

Unix での自動インストール	57
Unix でのプリンタ、ファックス、およびフォントのセットアップ	58
プリンタの設定	59
ファックス機能の使用	62
PDF コンバータ対応 PostScript インタプリタの接続	64
フォントの設定	65
Solaris(tm) オペレーティング環境でのパッチのインストール	68
OpenOffice.org のインストールの変更	69
変更	69
修復	70
削除	70
セットアップパラメータ	71

OpenOffice.org インストールの手引き

使われているマークについて

この手引きでは3種類のマークを用いて、役に立つ追加情報をお知らせしています。



注意！このマークは、データやシステムのセキュリティに関する重要な情報です。



メモ！このマークは追加情報を表しています。同じ操作を行うもうひとつの方法などが説明されています。



ヒント！このマークは、作業をより効率的に行うためのヒントを表しています。

OpenOffice.org のインストール

インストール方法の種類

この章ではインストール方法の種類、インストールする前に確認する事項、インストール処理の流れについて全般説明をします。すでにインストールされている OpenOffice.org を変更する場合の説明は、69 ページにある付録の OpenOffice.org のインストールの変更を参照してください。

以下に OpenOffice.org のインストール方法の種類と適用形態がご覧いただけます。

インストール方法の種類	用途
シングルユーザーインストール	OpenOffice.org を 1 人のユーザー用のコンピュータ 1 台にインストールします (Unix/Linux では推奨しません)。
マルチユーザーインストール あるいはネットワークインストール	OpenOffice.org を複数のユーザーが使えるように 1 台のコンピュータに、または、共同使用のネットワークコンピュータにインストールします。 このインストールは 2 段階から成ります。第一段階 (一般的に root あるいは管理者が実施) ですべての共有コンポーネントを 1 台のコンピュータにインストールし、第二段階の ワークステーションインストール でユーザーごとにファイルや設定をインストールします。



シングルユーザーインストールはシングルユーザーオペレーティングシステムでの使用に最も適しています。一般的には **Unix** で適用すべきではありません。



Unix 環境では、インストール処理を簡単にする簡易インストールスクリプトが利用できます。

使用例:

```
./install                # /usr/local へのマルチユーザーインストール  
./install --prefix=/opt  # /opt へのマルチユーザーインストール
```

使い方を知るには `./install --help` と入力してください。また 57 ページの付録 **Unix** での自動インストールを参照してください。



OpenOffice.org 用フォント、プリンタ、ファックスの設定を行うための **Unix** 対応 **OpenOffice.org プリンタアドミニストレーションプログラム spadmin** の使い方は、付録の説明を参照してください。

一般的なインストール情報

システム要件

一般システム要件

- ハードディスク空き容量 250 MB
- 画面解像度 800x600、256 色以上



SPARC(tm) プラットフォーム上 Solaris(tm) オペレーティング環境対応の特殊システム要件

- オペレーティング環境 Solaris 7 または 8 (アジア言語のサポートには Solaris 8 を推奨)
- Solaris 8 にはパッチ 108434-01 および 108435-01 (64 ビット)が必要
- Solaris 8 でアジア言語をサポートするには、他にパッチ 108773-12 が必要
- Solaris 7 にはパッチ 106327-08 および 106300-09 (64 ビット)が必要
- X サーバー (画面解像度 800x600、256 色以上) およびウィンドウマネージャー 例) OpenWindows(tm)、CDE、GNOME
- 128 MB の RAM

Solaris オペレーティング環境対応のパッチに関しては <http://sunsolve.sun.com> をご利用ください。



Intel プラットフォーム上 Solaris(tm) オペレーティング環境対応の特殊システム要件

- Pentium プロセッサ、あるいは互換性のあるプロセッサを備えたコンピュータ本体
- オペレーティング環境 Solaris 7 または 8 (アジア言語のサポートには Solaris 8 を推奨)
- Solaris 8 にはパッチ 108436-01 が必要
- Solaris 8 でアジア言語をサポートするには、他にパッチ 108774-12 が必要
- Solaris 7 にはパッチ 106328-08 が必要
- X サーバー (画面解像度 800x600、256 色以上) およびウィンドウマネージャー 例) OpenWindows(tm)、CDE、GNOME
- 64 MB の RAM

Solaris オペレーティング環境対応のパッチに関しては <http://sunsolve.sun.com> をご利用ください。



Linux (x86 および PPC) 対応の特殊システム要件

- Pentium プロセッサあるいは互換性のあるプロセッサ、あるいは PowerPC プロセッサを備えたコンピュータ本体
 - Linux カーネル 2.2.13 以上
 - X サーバー (画面解像度 800x600、256 色以上) およびウィンドウマネージャー 例) GNOME
 - 64 MB の RAM
 - インストールされている glibc2 バージョンが 2.1.3 以上(PPC Linux では glibc バージョン 2.2.1 以上)
-



Windows 対応の特殊システム要件

- **Windows 95** 以上。アジア言語のサポートには **Windows 98** 以降のバージョンが必要 (**Windows 2000** を推奨)
 - **Pentium** プロセッサ、あるいは互換性のあるプロセッサを備えたコンピュータ本体
 - **64 MB** の RAM
-

インストールの準備

- ・ ご使用のオペレーティングシステムに対応するインストール圧縮ファイルをお好みの一時ディレクトリに展開してください。すると **install** という名前のサブディレクトリが作られ、そこにインストールセットの全ファイルとセットアップルーチンが格納されます。

インストールに関する大切な指示はインストールディレクトリにある **readme.txt (Windows)**、あるいは **README (Solaris および Linux)** ファイルを参照してください。そこにはインストールの手引きを印刷したあとで追加された情報が記載されていることもありますので、必ずお読みください。



実行中のインストールは **キャンセル** ボタンを押すと随時中止できます。ただしその場合 **OpenOffice.org** は作動しませんので注意してください。インストールをキャンセルすると、インストールディレクトリが自動的に削除されます。その際、**そこに含まれているすべてのサブフォルダとファイル** もいっしょに削除されますので注意してください。



Windows NT / 2000 の場合、およびマルチユーザー用にセットアップされた **Win9x** の場合: **sversion.ini** ファイルが書き込まれるのは、**Windows** のディレクトリではなく、ユーザーごとにセットアップされるユーザーデータディレクトリです(たとえば `C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data`)。



Unix では **install** という特別インストールスクリプトが用意されています。これを用いてインストール処理を自動化できます。詳しい説明は **57** ページの付録にある **Unix** での自動インストールをご覧ください。

シングルユーザーインストール

シングルユーザーインストールでは、1 台のコンピュータ上に **OpenOffice.org** を 1 人のユーザー用にインストールします。

OpenOffice.org をシングルユーザーインストールする場合は、その特定の 1 人のユーザーとしてシステムにログインし、完全なアクセス権のあるお好みのディレクトリに **OpenOffice.org** をインストールしてください。



シングルユーザーインストールは一般的には **Unix / Linux** システムで使われるべきではありません。

Unix システムの利用が特定の 1 人のユーザーに限られるのはまれなので、提供される `install` スクリプトあるいはマルチユーザー/ネットワークインストールの使用を強く推奨します。

インストールをはじめる前に

インストールオプションの選択によって異なりますが、**OpenOffice.org** をインストールするディレクトリにはおよそ **190 ~ 250 MB** の空き容量が必要です。インストール中には一時ファイルでさらに **40 MB** の空き容量が必要です。一時ファイルはインストール完了後には自動削除されます。

インストール開始



OpenOffice.org の旧バージョンがすでにインストールされている場合は、以下のファイルがあるか、まず確認してください。

- **Unix** のホームディレクトリでは `.sversionrc`
- **Windows** のユーザーディレクトリでは `sversion.ini`

このファイルには、すでにインストールされている **OpenOffice.org** のパスとバージョン番号が記載されています。インストールしようとしている **OpenOffice.org** とインストールされている **OpenOffice.org** が同じバージョン番号であれば、まず旧 **OpenOffice.org** を削除しないと、新しいインストールは実行できません。

- 必要であれば、自分のユーザー名でシステムにログインしてください。シングルユーザーインストールにはシステム管理権はいりません。
-



- **Unix** でグラフィカル **X Window** インターフェースが自動起動済みでない場合は、グラフィカル **X Window** インターフェースに切り替えてください。
- インストールファイルのあるディレクトリへ、ターミナルウィンドウのコマンド行あるいはファイルマネージャで移動してください。
- 次のコマンドでインストールスクリプトを呼び出します。

```
./setup
```



-
- **Windows** 上では、**Windows** エクスプローラを使って **OpenOffice.org** のセットアッププログラムを呼び出します。パラメータを指定してセットアッププログラムを開始するには、**Windows** のスタートバーにあるスタートメニューを開き、**ファイル名を指定して実行...** コマンドを選択します。そしてテキストボックスに次のコマンド行を入力します。**参照...** ボタンを使ってファイルを見つけ、正しいパスを入力することもできます。

`X:\{tempdir}\install\setup.exe -パラメータ`

上記の `X:\{tempdir}` は、ダウンロードしたインストールファイルの展開後にインストールファイルが含まれる一時ディレクトリです。

シングルユーザーインストールの場合、セットアッププログラムにパラメータを引き渡す必要はありません。セットアップパラメータについての詳しい説明は付録を参照してください。

インストールの流れ

ようこそ

まず、ごあいさつの画面が表示されます。



セットアッププログラムの多くのダイアログには **ヘルプ** ボタンが用意されています。このボタンを押すと、現在のダイアログについての短いヘルプテキストが表示されます。ヘルプテキスト画面の **戻る** ボタンを押すと、再びセットアッププログラムに戻ります。ヘルプテキストを右上の「X」ボタンで閉じないでください。セットアッププログラムが終了してしまいます。

- ごあいさつの画面を確認したら、**次へ** ボタンを押します。

重要な情報

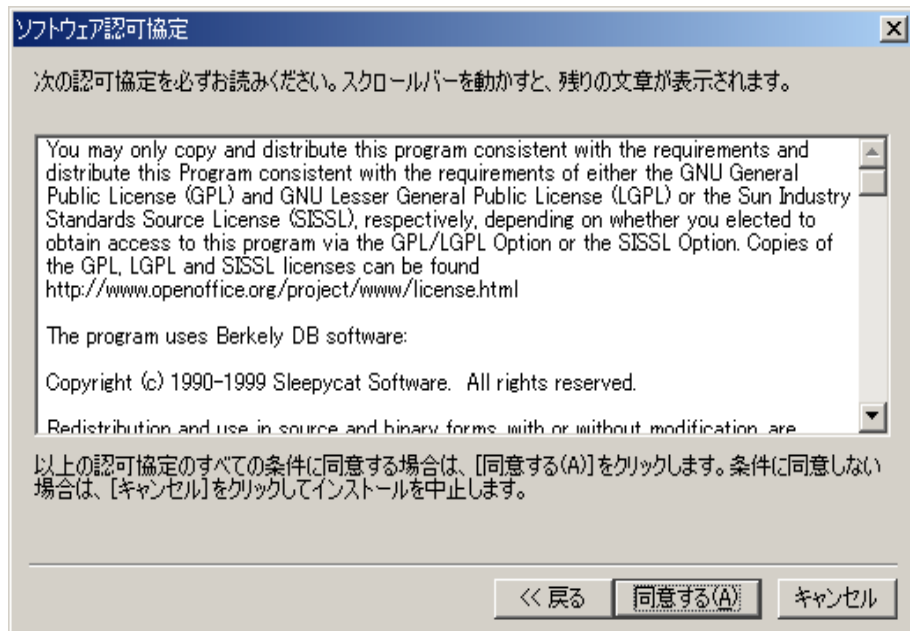
ウィンドウに、ファイル `readme.txt` (**Windows**) あるいは `README` (**Solaris** および **Linux**) の内容が表示されます。このファイルは、インストール後に **OpenOffice.org** ディレクトリから開くこともできます。



- ・ テキストを読み、確認したら、**次へ**を押します。

ソフトウェア認可協定

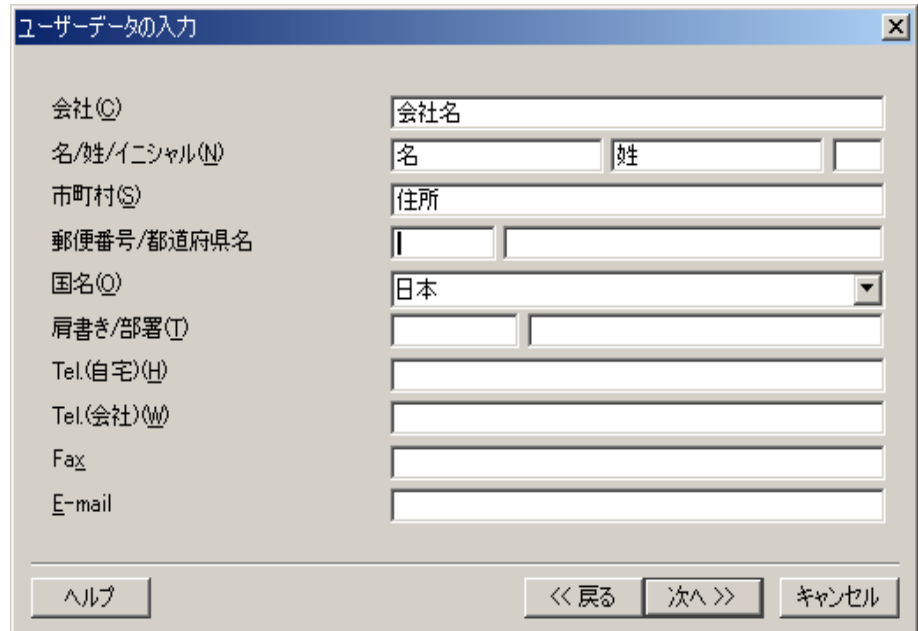
ウィンドウにソフトウェア認可協定が表示されます。



- ソフトウェア認可協定を注意深く読んでください。すべての点に同意できる場合は **同意する** をクリックしてインストールを続行します。ソフトウェア認可協定に同意しない場合 **キャンセル** をクリックしてください。この場合 OpenOffice.org はインストールされません。

ユーザーデータ

ユーザーデータの入力 ダイアログが開きます。



会社(C)	会社名	
名/姓/イニシャル(N)	名	姓
市町村(S)	住所	
郵便番号/都道府県名		
国名(Q)	日本	
肩書き/部署(T)		
Tel.(自宅)(H)		
Tel.(会社)(W)		
Fax		
E-mail		

ヘルプ << 戻る 次へ >> キャンセル

- 個人データを入力します。

ここで入力するデータは **OpenOffice.org** のフィールドに使われます。たとえば、レターや **Fax** 送付状のテンプレートのフィールドに、ここで入力するユーザーの名前などが自動挿入されます。

このダイアログはインストール後にもメニュー **ツール** → **オプション** → **OpenOffice.org** の **ユーザーデータ** で呼び出すことができます。
- 次へ** をクリックしてインストールを続行します。

インストールの種類

次に表示される OpenOffice.org セットアッププログラムのダイアログでインストールの種類を選択します。

ここに示された必要なディスクの空き容量は、十分な空き容量のある次のターゲットドライブ上のクラスタサイズを基に概算されたものです。



標準インストール をほとんどのユーザーに推奨します。大まかに言えば、一部のフィルタとともにすべてのコンポーネントをインストールします。このオプションを選択すると、あとは次のダイアログで **OpenOffice.org** をインストールするディレクトリを指定するだけです。

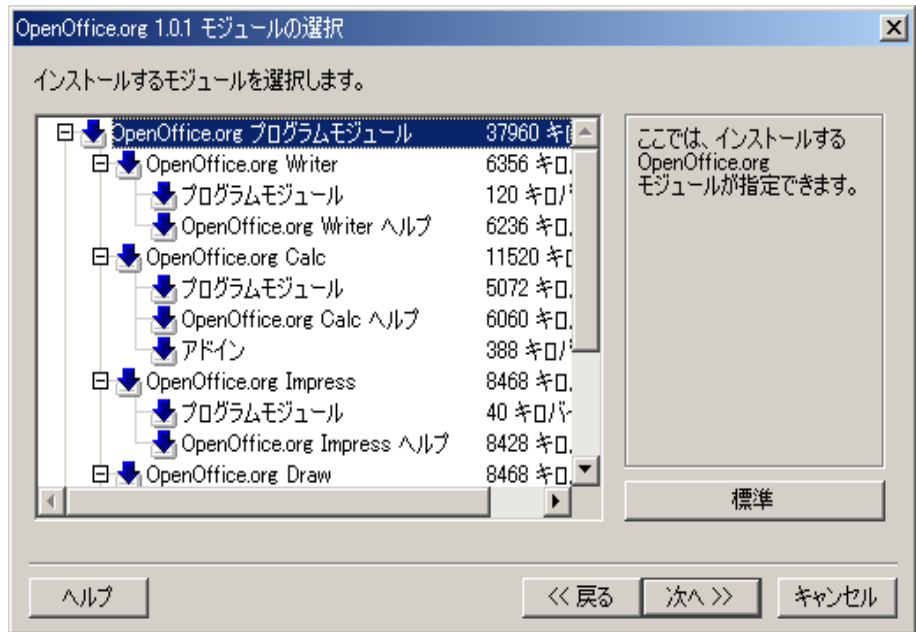
ユーザー操作のインストール を選択した場合もインストールディレクトリの選択ダイアログが表示されます。そして次にインストール可能なコンポーネントが個々に選択できるダイアログが表示されます。

最小インストール は **OpenOffice.org** の実行に必要な最低限のコンポーネントをインストールします。このオプションを選択した場合、ヘルプファイルはインストールされません。またサンプル文書とテンプレートの大部分もインストールされません。これを選択すると **OpenOffice.org** をインストールするディレクトリを指定するだけでインストールが開始できます。

- ・ 必要に応じたインストールの種類を選択します。
- ・ **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

コンポーネントの選択

ユーザー操作のインストール を選択すると、インストールするコンポーネントを選択するダイアログが表示されます。



コンポーネント名の横にあるシンボルが濃い色になっていると、そのコンポーネントはすべてインストールされます。インストールしないコンポーネントは、名前の横にあるシンボルをクリックして灰色にします。シンボルをクリックするたびに濃い色と灰色と切り替わり、該当するコンポーネントとそれに含まれる下位コンポーネントをインストールする(濃い色)、インストールしない(灰色)、のどちらかが選択できます。

コンポーネント名の横にあるプラス記号をクリックすると、下位のコンポーネントのリストが開きます。下位のコンポーネントもシンボルをクリックしてインストールする、しないのどちらかが選択できます。コンポーネントの下位コンポーネントにインストールするものとインストールしないものが混じっているときは、薄い色になります。たとえば **OpenOffice.org Writer** のテキストフィルタのシンボルは標準設定では薄い色になっていますが、これはたくさんのフィルタの中から一部のみが選択されているからです。

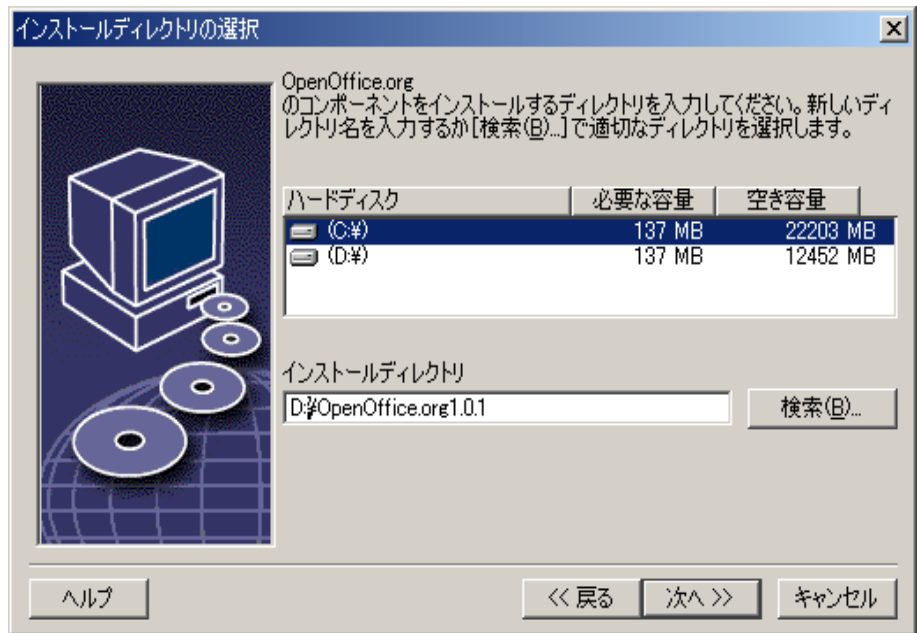
標準 ボタンをクリックすると、選択項目はこのダイアログを最初に呼び出したときの初期設定の状態に戻ります。

赤色のコンポーネントは必ずインストールされるもので、選択から外すことはできません。

- インストールするモジュールおよびコンポーネントを選択します。
- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

インストールディレクトリ

インストールディレクトリを選択するダイアログが表示されます。



ダイアログ上部にはお使いのシステムにある各ドライブで必要なディスク容量とディスクの空き容量が一覧表示されます。必要なディスク容量は各ドライブ上のクラスタサイズの違いによって異なってきます。

- **検索** をクリックして選択ダイアログの中からインストールする場所を選択するか、あるいはテキストボックスにインストール先のパスを直接入力します。指定したディレクトリがなければ、確認メッセージのあと自動的に作成します。**OpenOffice.org** は、指定されたディレクトリにサブフォルダとその中のファイルをインストールします。
- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

インストールオプションの入力完了

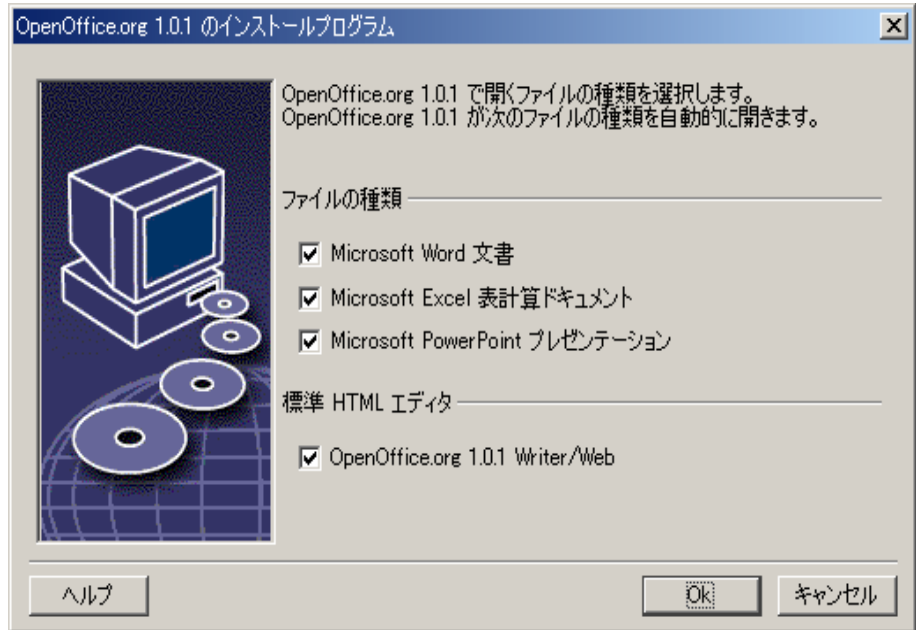


プログラムファイルのコピーに必要な入力がすべて完了したことをダイアログでお知らせします。

- **インストールする** をクリックしてインストールを続行します。

ファイルの種類割り当て

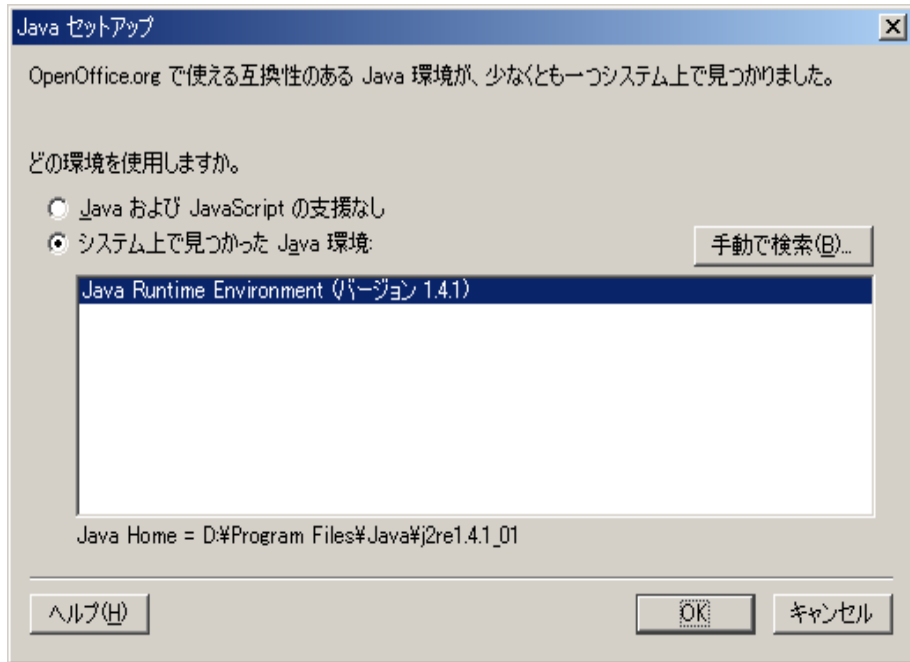
次のダイアログで、OpenOffice.org で開くファイルの種類を **追加** できます。追加した種類のファイルを開くデフォルトプログラムとして OpenOffice.org がオペレーティングシステムに登録されます。



- OpenOffice.org 固有のファイルの種類の外に開く **ファイルの種類** を選択します。
- OpenOffice.org を HTML ファイル (Web ページ) の標準エディタとして使用するときは、**標準 HTML エディタ** のチェックボックスをアクティブにします。この設定は HTML ファイルの編集のみに適用されます。これらのファイルを開く際には、Netscape などのお使いのブラウザが使われます。
- **OK** ボタンをクリックします。

Java(tm) ランタイム環境

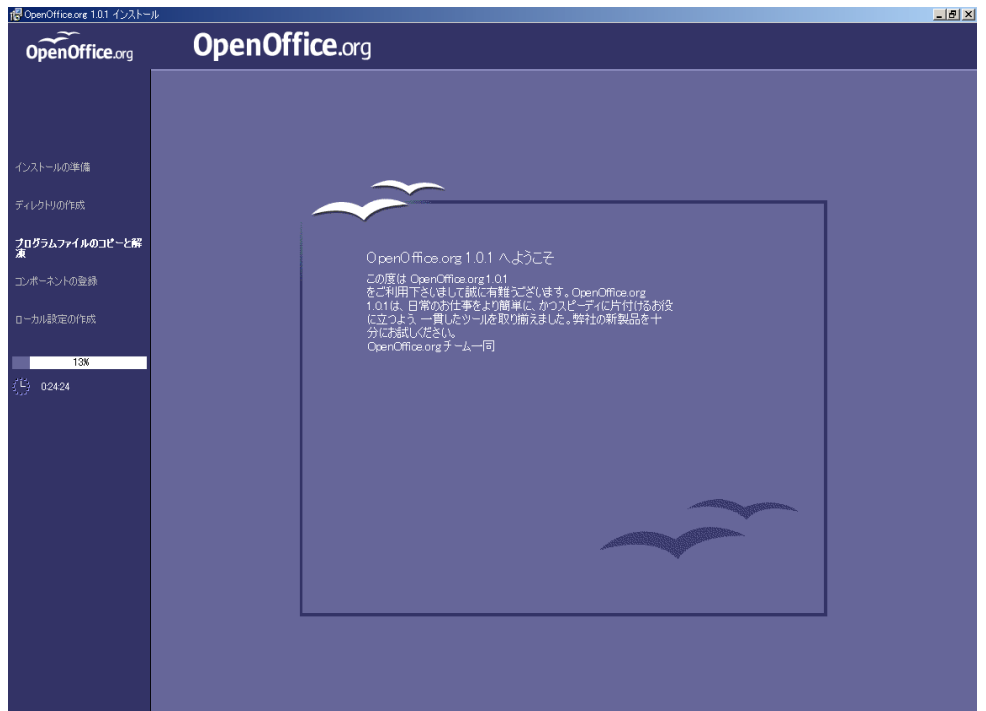
システムに登録されている Java ランタイム環境のバージョンを示すダイアログが表示されます。



ここで **OpenOffice.org** で使用する Java ランタイム環境を選択します。**1.3.1** 以降のバージョンのファイルが必要です。**1.3.1** より新しいバージョンがすでにインストールされていて **OpenOffice.org** がそれを **認証** したら、別のバージョンをインストールする必要はありません。

- オプションの中から選択し、**OK** ボタンをクリックします。

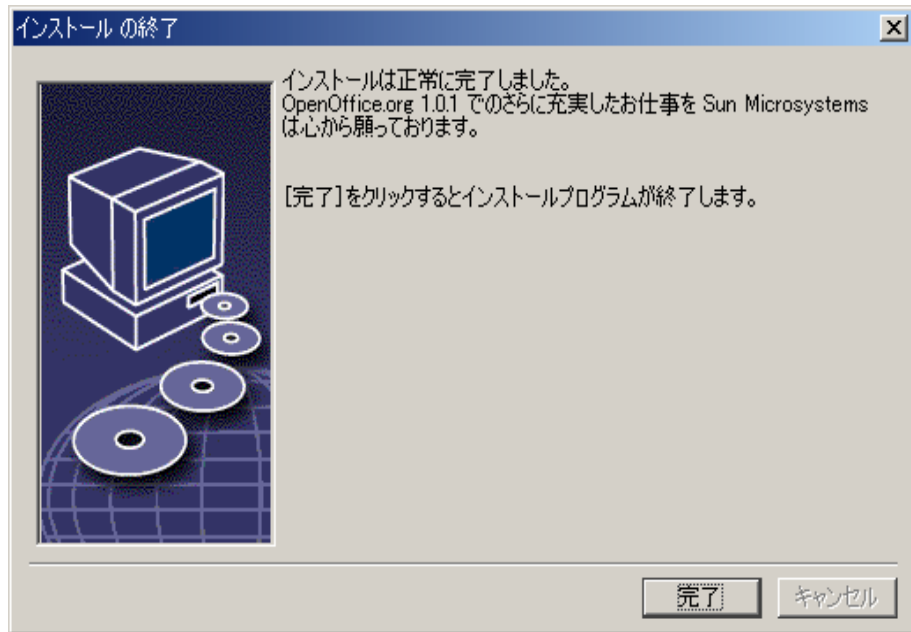
ファイルのコピー



インストールの進捗状況とインストール完了までの推定残り時間が画面に表示されます。

インストールの最後に

ファイルコピーとファイル登録のプロセスが終了すると、インストールの終了ダイアログが表示されます。



- ・ **完了** をクリックしてインストールを終了します。

OpenOffice.org を起動する



Unix 上で OpenOffice.org を起動させるには、OpenOffice.org1.0/program ディレクトリ、あるいはホームディレクトリにあるローカルの OpenOffice.org ディレクトリに移動して、そこからコマンドで OpenOffice.org を起動させます。

```
./soffice
```

また OpenOffice.org1.0/program ディレクトリを **Unix** 上でのプログラムパスに含めることも可能です。この場合だと soffice コマンドで OpenOffice.org が任意のディレクトリから起動できます。標準プリンタの設定には、プリンタアドミニストレーションプログラム **spadmin** を呼び出します。付録にある情報を参照してください。

Solaris オペレーティング環境 にインストールしたあとは、ログアウトし、再度ログインすることにより、CDE 統合を更新してください。



Windows 上では、インストールが完了すると、インストールされた OpenOffice.org のいろいろなコンポーネントを起動するメニュー項目がスタートメニューのプログラムの OpenOffice.org 1.0 に表示されます。

OpenOffice.org のインストール中に **Windows** のスタートメニューの自動スタートのフォルダに OpenOffice.org クイック起動へのリンクが作成されます。システムを再起動すると、クイック起動がシステムトレイで使用可能になります。

クイック起動のアイコンで右クリックしてコンテキストメニューを開き、そこから OpenOffice.org のいろいろなコンポーネントが起動できます。

クイック起動の機能に関する詳細情報はヘルプから目次「クイック起動」で参照してください。

マルチユーザー/ネットワークインストール

インストールフェーズ 1

OpenOffice.org のマルチユーザー/ネットワークインストールは 2 段階で行います。まず root、システム管理者、または必要な権限を持つ一般ユーザーとして、目的のコンピュータまたはネットワークコンピュータにログインし、ユーザーが読み取り権と実行権を持つディレクトリに **OpenOffice.org** 全部をインストールします。この **フェーズ 1** が完了したら、各ユーザーはシステムにログインして **OpenOffice.org** を各自のホームディレクトリのフォルダに **ワークステーションインストール** することができます。

フェーズ 1 を開始するには、インストールディレクトリからセットアッププログラムを呼び出し、その際パラメータ **-net** を引き渡します。



フェーズ 1 インストールだけでは、直接実行できる **OpenOffice.org** バージョンは (root やシステム管理者に対してさえも) 用意されません。必要であれば root やシステム管理者もワークステーションインストールを行います。

インストールをはじめる前に

OpenOffice.org をインストールするには、ターゲットマシンのディレクトリに約 250 MB の空き容量が必要です。インストール中は、一時ファイルにさらに 20 MB 程度の容量を必要とします。一時ファイルはインストールが正常に完了すると、自動的に削除されます。Unix では 80 MB ほどのスワップボリュームが必要です。

インストール開始

- システム管理者あるいは **root** としてシステムにログインします。



- グラフィカル **X Window** インターフェースが自動起動済みでない場合は、グラフィカル **X Window** インターフェースに切り替えてください。
- インストールファイルのあるディレクトリへ、ターミナルウィンドウのコマンド行あるいはファイルマネージャで移動してください。
- 次のコマンドでインストールスクリプトを呼び出します。

```
./setup -net
```

代わりの方法として、**Unix** ユーザーは **install** スクリプトをコマンド行から使って、非グラフィカルインストールを行うことも可能です。

書式を知るには、次のコマンドを入力するか、より詳しい情報について付録にある **Unix** での自動インストールを参照してください。

```
./install --help
```



- インストールディレクトリからセットアッププログラムの **Setup.exe** を呼び出し、その際パラメータ **-net** を引き渡します。

パラメータを指定してセットアッププログラムを開始するには、スタートバーにあるスタートメニューを開き、**ファイル名を指定して実行...** コマンドを選択します。そしてテキストボックスに次のコマンド行を入力します。**参照...** ボタンを使ってファイルを見つけ、正しいパスを入力することもできます。

```
X:\{tempdir}\install\setup.exe -net
```

上記の **X:\{tempdir}** は、ダウンロードしたインストールファイルの展開後にインストールファイルが含まれる一時インストールディレクトリです。

インストールの流れ

ようこそ

まず、ごあいさつの画面が表示されます。



セットアッププログラムの多くのダイアログには **ヘルプ** ボタンが用意されています。このボタンを押すと、現在のダイアログについての短いヘルプテキストが表示されます。ヘルプテキスト画面の **戻る** ボタンを押すと、再びセットアッププログラムに戻ります。ヘルプテキストを右上の「X」ボタンで閉じないでください。セットアッププログラムが終了してしまいます。

- ごあいさつの画面を確認したら、**次へ** ボタンを押します。

重要な情報

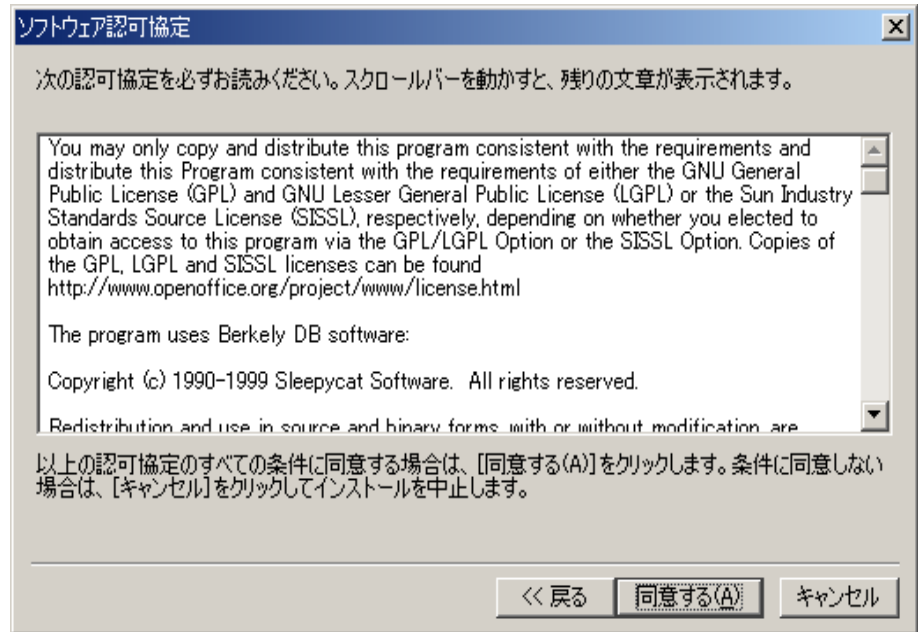
ウィンドウに、ファイル `readme.txt` (Windows) あるいは `README` (Solaris および Linux) の内容が表示されます。このファイルは、インストール後に OpenOffice.org ディレクトリから開くこともできます。



- ・ テキストを読み、確認したら、**次へ** を押します。

ソフトウェア認可協定

ウィンドウにソフトウェア認可協定が表示されます。



- ソフトウェア認可協定を注意深く読んでください。すべての点に同意できる場合は **同意する** をクリックしてインストールを続行します。ソフトウェア認可協定に同意しない場合 **キャンセル** をクリックしてください。この場合 OpenOffice.org はインストールされません。

インストールの種類

次に表示される OpenOffice.org セットアッププログラムのダイアログでインストールの種類を選択します。

ここに示された必要なディスクの空き容量は、十分な空き容量のある次のターゲットドライブ上のクラスタサイズを基に概算されたものです。

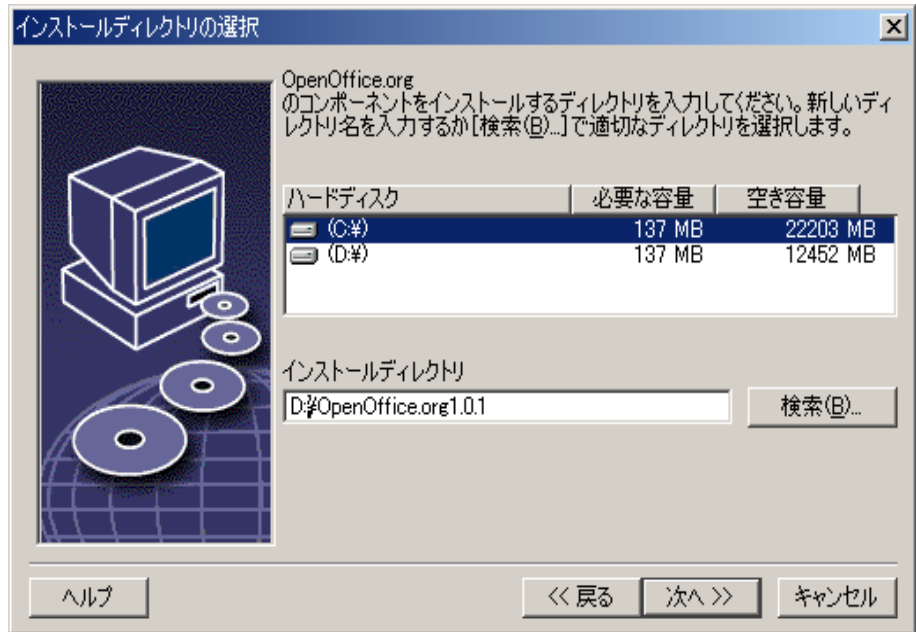


ネットワークサーバーにインストールするときは OpenOffice.org のすべてのコンポーネントをインストールします。**ユーザー操作のインストール** を選択し、次のダイアログでディレクトリを選択した上で、さらに次のダイアログですべてのオプションを選択します。

- ・ **ユーザー操作のインストール** を選択します。
- ・ **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

インストールディレクトリ

インストールディレクトリを選択するダイアログが表示されます。



ダイアログ上部にはお使いのシステムにある各ドライブで必要なディスク容量とディスクの空き容量が一覧表示されます。必要なディスク容量は各ドライブ上のクラスタサイズの違いによって異なります。

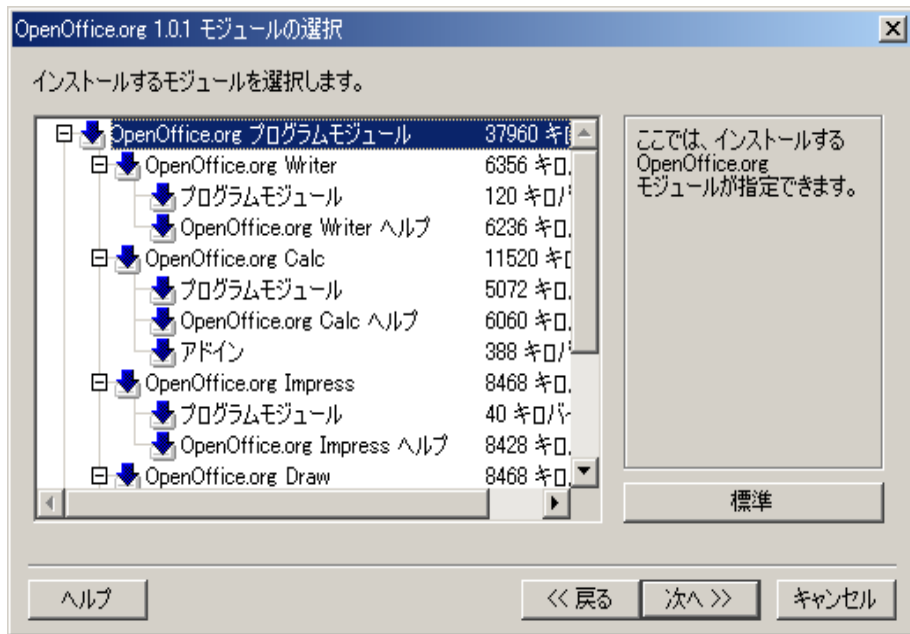
- **検索** をクリックして選択ダイアログの中からインストールする場所を選択するか、あるいはテキストボックスにインストール先のパスを直接入力します。指定したディレクトリがなければ、確認メッセージのあと自動的に作成します。OpenOffice.org は、指定されたディレクトリにサブフォルダとその中のファイルをインストールします。
- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。



ワークステーションインストールが実行できるように、すべてのユーザーが読み取り権と実行権を持つディレクトリを選択します。

コンポーネントの選択

ユーザー操作のインストール を選択すると、インストールするコンポーネントを選択するダイアログが表示されます。



コンポーネント名の横にあるシンボルが濃い色になっていると、そのコンポーネントはすべてインストールされます。インストールしないコンポーネントは、名前の横にあるシンボルをクリックして灰色にします。シンボルをクリックするたびに濃い色と灰色と切り替わり、該当するコンポーネントとそれに含まれる下位コンポーネントをインストールする(濃い色)、インストールしない(灰色)、のどちらかが選択できます。

コンポーネント名の横にあるプラス記号をクリックすると、下位のコンポーネントのリストが開きます。下位のコンポーネントもシンボルをクリックしてインストールする、しないのどちらかが選択できます。コンポーネントの下位コンポーネントにインストールするものとインストールしないものが混じっているときは、薄い色になります。たとえば **OpenOffice.org Writer** のテキストフィルタのシンボルは標準設定では薄い色になっていますが、これはたくさんのフィルタの中から一部のみが選択されているからです。

標準 ボタンをクリックすると、選択項目はこのダイアログを最初に呼び出したときの初期設定の状態に戻ります。

赤色のコンポーネントは必ずインストールされるもので、選択から外すことはできません。

- インストールするモジュールおよびコンポーネントを選択します。
- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

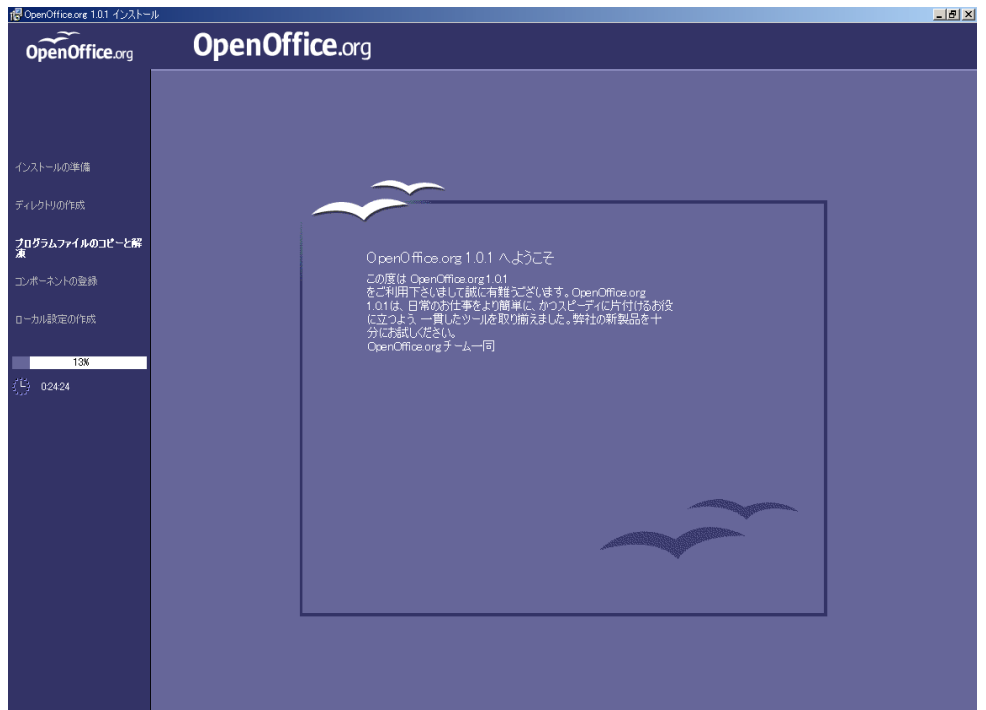
インストールオプションの入力完了



プログラムファイルのコピーに必要な入力がすべて完了したことをダイアログでお知らせします。

- ・ **インストールする** をクリックしてインストールを続行します。

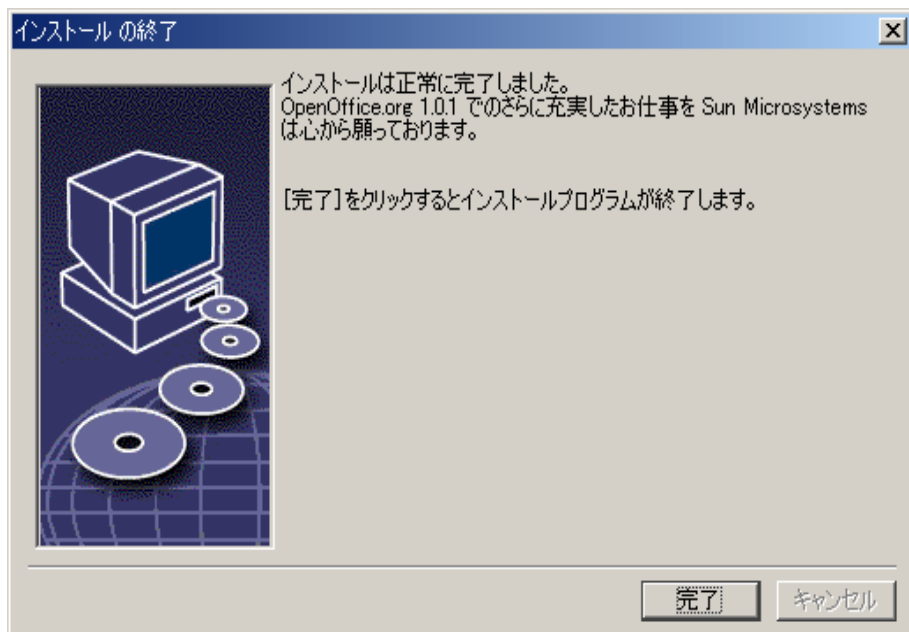
ファイルのコピー



インストールの進捗状況とインストール完了までの推定残り時間が画面に表示されます。

インストールの最後に

ファイルコピーとファイル登録のプロセスが終了すると、インストールの終了ダイアログが表示されます。



- ・ **完了** をクリックしてインストールを終了します。

次に各ユーザーが **ワークステーションインストール** で **OpenOffice.org** を各自のホームディレクトリあるいはローカルハードディスクにインストールします。



サーバーのシステム管理者としてプリンタアドミニストレーションプログラム **spadmin** を呼び出して、ユーザーインストール用のプリンタ設定をプリセットし、フォントをインストールできます。**spadmin** に関する詳細説明は付録を参照してください。

ワークステーションインストール

すべてのユーザーは、フェーズ1でインストールされたセットアッププログラムを呼び出し自分のログイン名でユーザーインストールが実行できます。

インストールをはじめる前に

OpenOffice.org をインストールするには、ハードディスクに約 2 ~ 4 MB の空き容量が必要です。

インストール開始

ワークステーションインストールを行なうまえに、31 ページのインストールフェーズ1で説明されているフェーズ1インストールを正しく実行済みであることが大切です。



OpenOffice.org の旧バージョンがすでにインストールされている場合は、以下のファイルがあるか、まず確認してください。

- **Unix** のホームディレクトリでは `.sversionrc`
- **Windows** のユーザーディレクトリでは `sversion.ini`

このファイルには、すでにインストールされている OpenOffice.org のパスとバージョン番号が記載されています。インストールしようとしている OpenOffice.org とインストールされている OpenOffice.org が同じバージョン番号であれば、まず旧 OpenOffice.org を削除しないと、新しいインストールは実行できません。

-
- システムに自分のユーザー名でログインします。

 **Unix**

-
- グラフィカル **X Window** インターフェースに切り替えます。
 - ターミナルウィンドウを開き、コマンドラインを使ってサーバー上のネットワークインストールパスへ、そしてそこからプログラムのあるサブディレクトリに入ります。プログラムが **/opt/OpenOffice.org1.0** にサーバーインストールされているときは、次のコマンドで実行できます。

```
cd /opt/OpenOffice.org1.0/program
```

- 次のコマンドでインストールスクリプトを開始します。
- ```
./setup
```
- 

 **Win**

- 
- サーバー上のネットワークインストールディレクトリにあるセットアッププログラム **Setup.exe** を実行します。

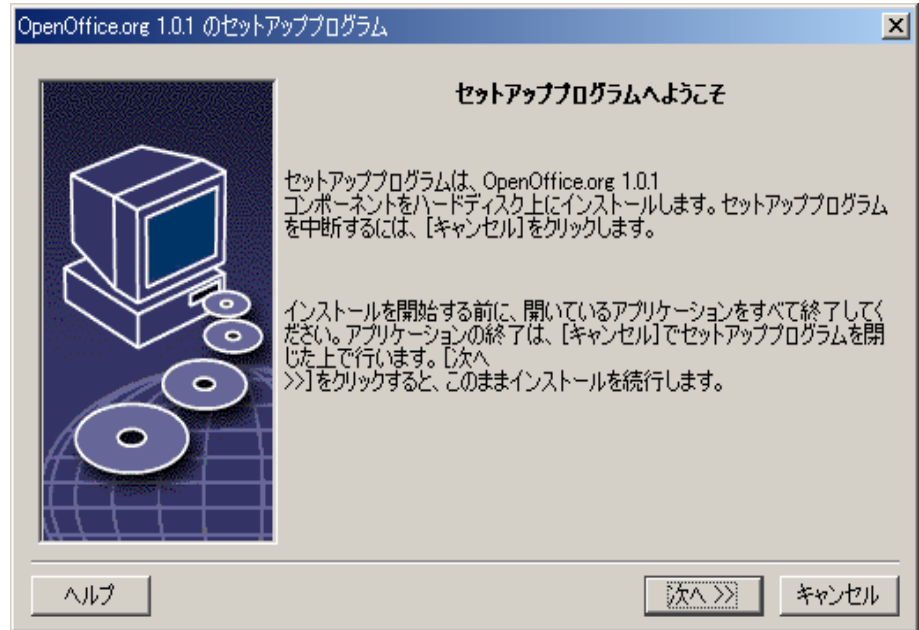
**Windows** 上では **Windows** エクスプローラなどを使ってセットアッププログラムを呼び出します。

---

## インストールの流れ

### ようこそ

まず、ごあいさつの画面が表示されます。



セットアッププログラムの多くのダイアログには **ヘルプ** ボタンが用意されています。このボタンを押すと、現在のダイアログについての短いヘルプテキストが表示されます。ヘルプテキスト画面の **戻る** ボタンを押すと、再びセットアッププログラムに戻ります。ヘルプテキストを右上の「X」ボタンで閉じないでください。セットアッププログラムが終了してしまいます。

- ごあいさつの画面を確認したら、**次へ** ボタンを押します。

## 重要な注意事項

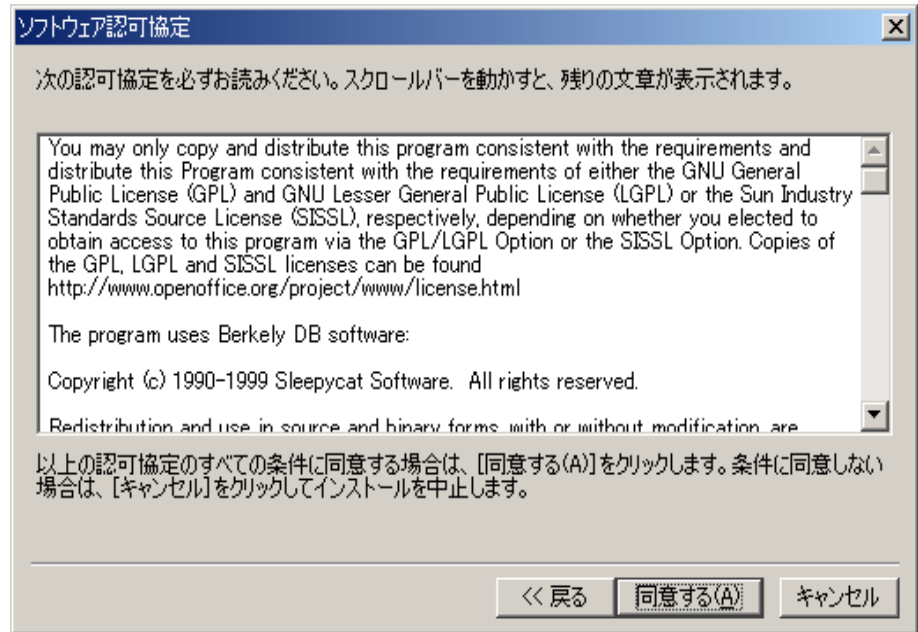
ウィンドウに、ファイル `readme.txt` (Windows) あるいは `README` (Solaris および Linux) の内容が表示されます。このファイルは、インストール後に OpenOffice.org ディレクトリから開くこともできます。



- ・ テキストを読み、確認したら、**次へ** を押します。

## ソフトウェア認可協定

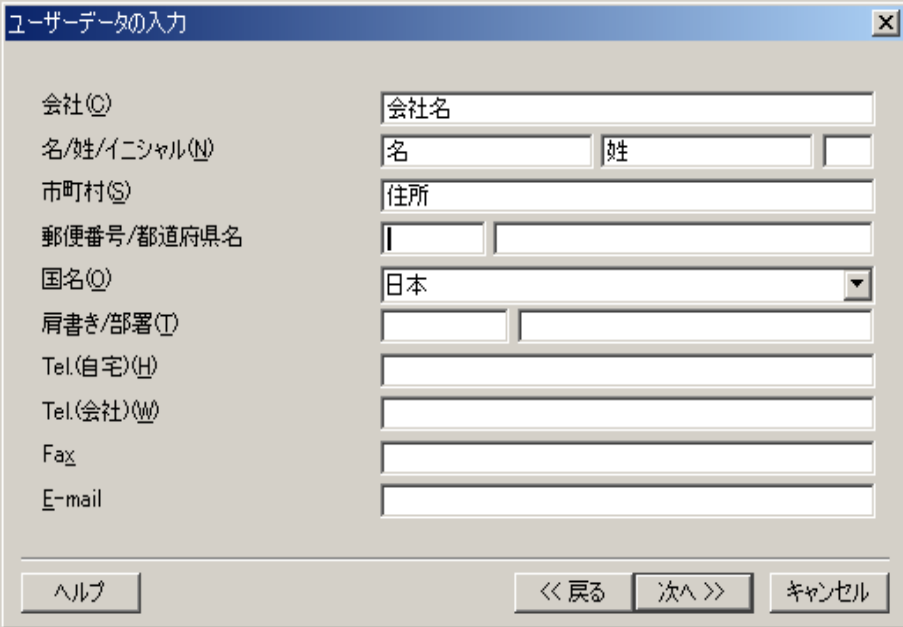
ウィンドウにソフトウェア認可協定が表示されます。



- ソフトウェア認可協定を注意深く読んでください。すべての点に同意できる場合は **同意する** をクリックしてインストールを続行します。ソフトウェア認可協定に同意しない場合 **キャンセル** をクリックしてください。この場合 OpenOffice.org はインストールされません。

## ユーザーデータ

ユーザーデータの入力 ダイアログが開きます。



|              |     |
|--------------|-----|
| 会社(C)        | 会社名 |
| 名/姓/イニシャル(N) | 名 姓 |
| 市町村(S)       | 住所  |
| 郵便番号/都道府県名   |     |
| 国名(Q)        | 日本  |
| 肩書き/部署(T)    |     |
| Tel.(自宅)(H)  |     |
| Tel.(会社)(W)  |     |
| Fax          |     |
| E-mail       |     |

ヘルプ << 戻る 次へ >> キャンセル

- 個人データを入力します。

ここに入力されたデータは **OpenOffice.org** のフィールドに使われます。たとえば、レターや **Fax** 送付状のテンプレートのフィールドに、ここで入力するユーザーの名前などが自動挿入されます。

このダイアログはインストール後にもメニュー **ツール** → **オプション** → **OpenOffice.org** の **ユーザーデータ** で呼び出すことができます。
- 次へ** をクリックしてインストールを続行します。



## インストールの種類



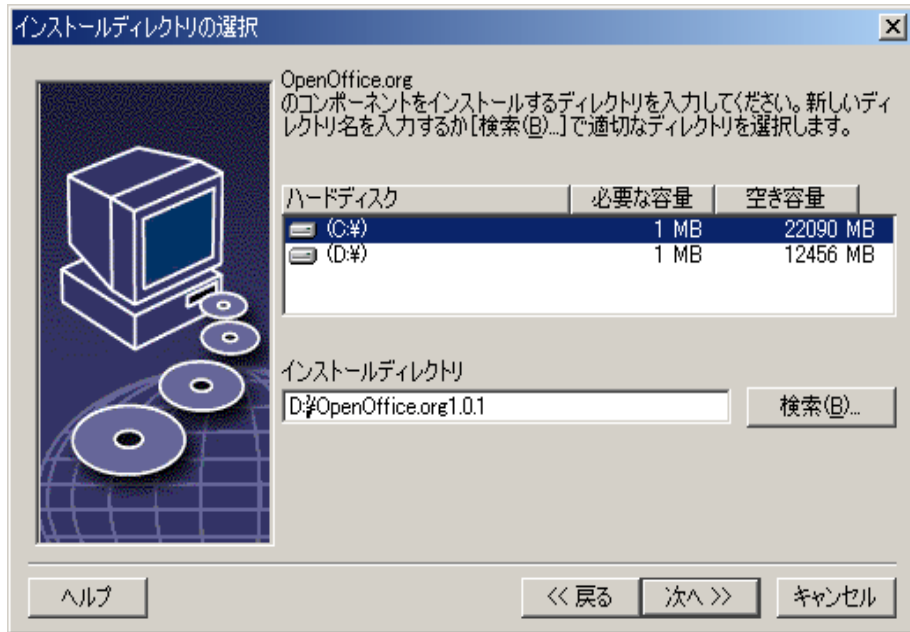
- ・ ユーザーインストールをするときはオプション **ワークステーションインストール** を選択します。その際ユーザー独自で可変のデータを含むファイルだけがインストールされます。

**ローカルにインストール** は全部揃った完璧な OpenOffice.org をローカルにインストールします。ソースとしてサーバーインストールが使用されます。

- ・ **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

## インストールディレクトリ

インストールディレクトリを選択するダイアログが表示されます。



ダイアログ上部にはお使いのシステムにある各ドライブで必要なディスク容量とディスクの空き容量が一覧表示されます。必要なディスク容量は各ドライブ上のクラスタサイズの違いによって異なります。

- **検索** をクリックして選択ダイアログの中からインストールする場所を選択するか、あるいはテキストボックスにインストール先のパスを直接入力します。指定したディレクトリがなければ、確認メッセージのあと自動的に作成します。**OpenOffice.org** 指定したディレクトリにサブフォルダとその中のファイルをインストールします。
- **次へ** をクリックしてインストールを続行します。

## インストールオプションの入力完了

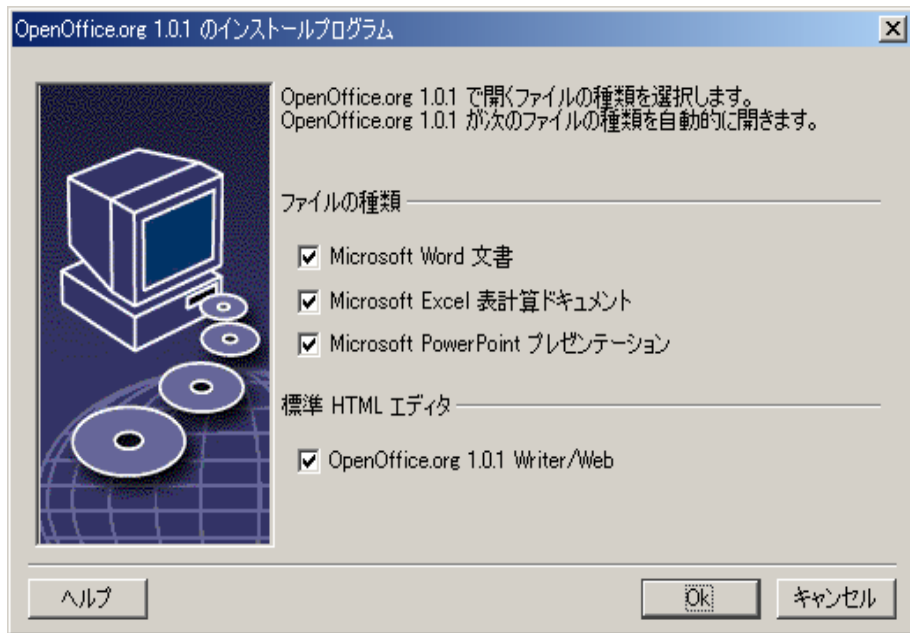


プログラムファイルのコピーに必要な入力がすべて完了したことをダイアログでお知らせします。

- **インストールする** をクリックしてインストールを続行します。

## ファイルの種類割り当て

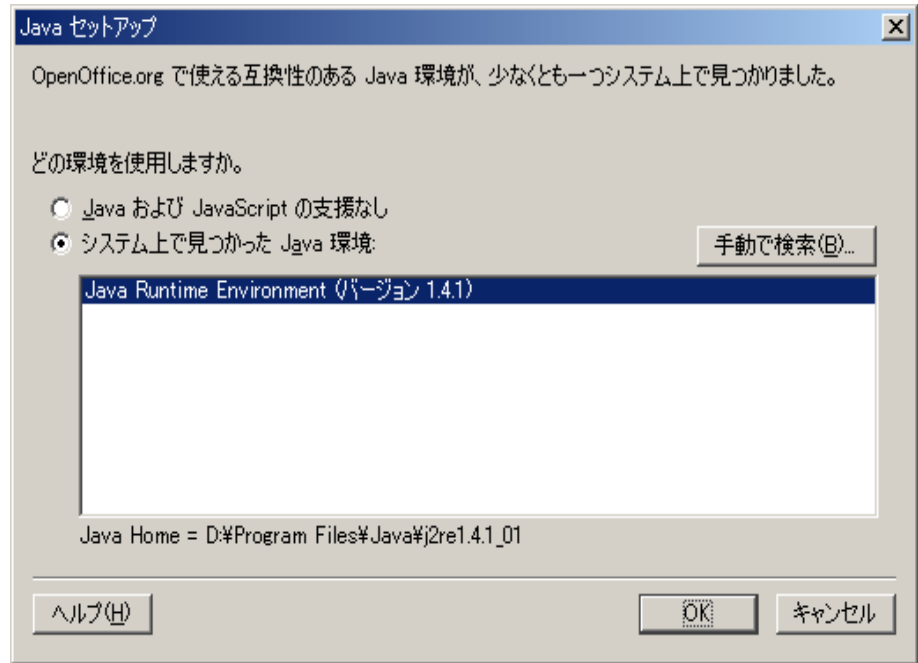
次のダイアログで、OpenOffice.org で開くファイルの種類を **追加** できます。追加した種類のファイルを開くデフォルトプログラムとして OpenOffice.org がオペレーティングシステムに登録されます。



- OpenOffice.org 固有のファイルの種類の外に開く **ファイルの種類** を選択します。
- OpenOffice.org を HTML ファイル (Web ページ) の標準エディタとして使用するときは、**標準 HTML エディタ** のチェックボックスをアクティブにします。この設定は HTML ファイルの編集のみに適用されます。これらのファイルを開く際には、Netscape などのお使いのブラウザが使われます。
- **OK** ボタンをクリックします。

## Java(tm) ランタイム環境

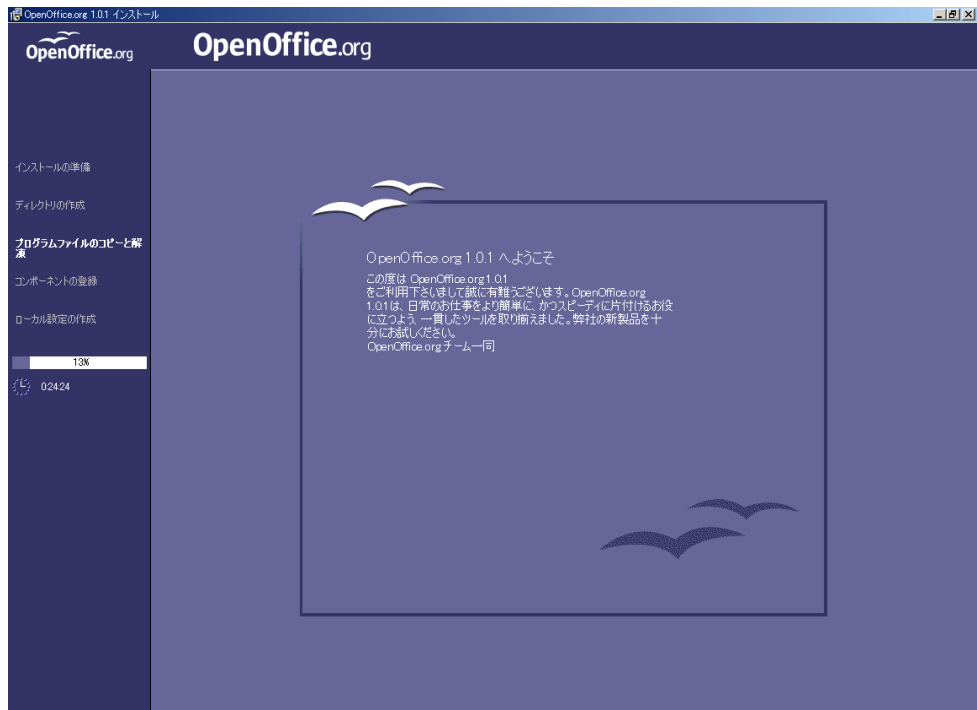
システムに登録されている Java ランタイム環境のバージョンを示すダイアログが表示されます。



ここで OpenOffice.org で使用する Java ランタイム環境を選択します。1.3.1 以降のバージョンのファイルが必要です。1.3.1 より新しいバージョンがすでにインストールされていて OpenOffice.org がそれを **認証** したら、別のバージョンをインストールする必要はありません。

- オプションの中から選択し、**OK** ボタンをクリックします。

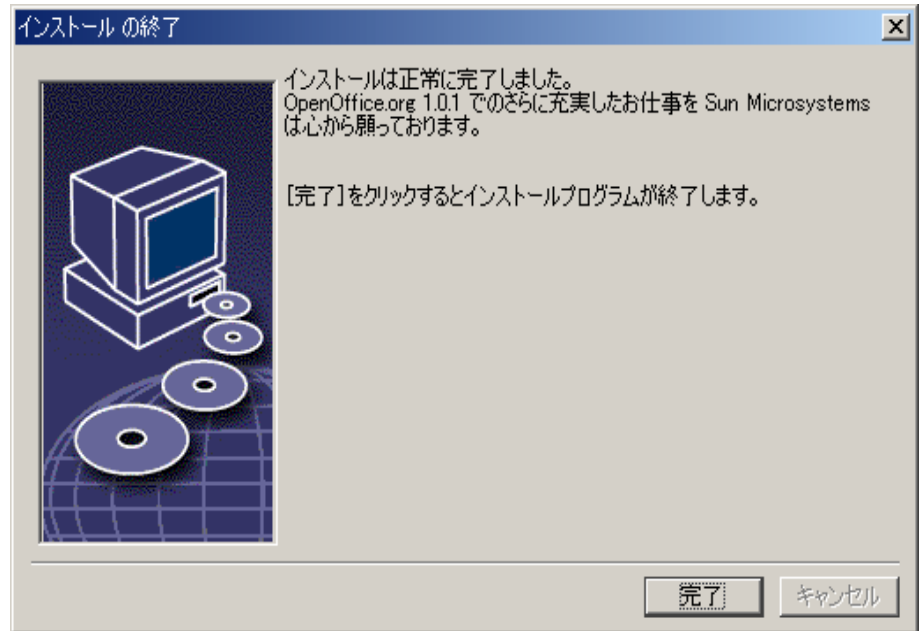
## ファイルのコピー



インストールの進捗状況とインストール完了までの推定残り時間が画面に表示されます。

## インストールの最後に

ファイルコピーとファイル登録のプロセスが終了すると、インストールの終了ダイアログが表示されます。



- **完了** をクリックしてインストールを終了します。

## OpenOffice.org を起動する

---



**Windows** 上では、インストールが完了すると、インストールされた OpenOffice.org のいろいろなコンポーネントを起動するメニュー項目がスタートメニューのプログラムの **OpenOffice.org 1.0** に表示されます。

OpenOffice.org のインストール中に **Windows** のスタートメニューの自動スタートのフォルダに **OpenOffice.org** クイック起動へのリンクが作成されます。システムを再起動すると、クイック起動がシステムトレイで使用可能になります。

クイック起動のアイコンで右クリックしてコンテキストメニューを開き、そこから **OpenOffice.org** のいろいろなコンポーネントが起動できます。

クイック起動の機能に関する詳細情報はヘルプで目次「クイック起動」を参照してください。

---



**Unix** 上で OpenOffice.org を起動させるには、`OpenOffice.org1.0/program` ディレクトリ、あるいはホームディレクトリにあるローカルの **OpenOffice.org** ディレクトリに移動して、そこからコマンドで **OpenOffice.org** を起動させます。

```
./soffice
```

また `OpenOffice.org1.0/program` ディレクトリを **Unix** 上でのプログラムパスに含めることも可能です。この場合だと `soffice` コマンドで **OpenOffice.org** が任意のディレクトリから起動できます。標準プリンタの設定には、プリンタアドミニストレーションプログラム **spadmin** を呼び出します。付録にある情報を参照してください。

**Solaris オペレーティング環境** にインストールしたあとは、ログアウトし、再度ログインすることにより、**CDE 統合**を更新してください。

---



# 付録

---

付録では、**Unix** での **OpenOffice.org** 自動インストールに関する情報、**Solaris** および **Linux** 上でのプリンタアドミネレーションプログラム、および **OpenOffice.org** インストールの変更、修復、削除について説明します。

## Unix での自動インストール

**Unix** での **OpenOffice.org** インストールの自動化に役立つ特別インストールスクリプトが用意されています。これを用いればグラフィカルインターフェース下であろうとなかろうとコマンドラインで **OpenOffice.org** をインストールできます。

インストールスクリプト `install` は **OpenOffice.org** のマルチユーザーインストール(**Unix/Linux** での標準)をデフォルトで行ないます。次のコマンドライン引数を受け付けます。

|                              |                                                                                                 |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <code>--help</code>          | ヘルプメッセージの表示                                                                                     |
| <code>--version</code>       | インストールされる <b>OpenOffice.org</b> のバージョンの表示                                                       |
| <code>--prefix=PREFIX</code> | <code>PREFIX</code> へ <b>OpenOffice.org</b> をインストール<br>(標準では <code>\$oo_default_prefix</code> ) |
| <code>--single</code>        | <b>OpenOffice.org</b> のシングルユーザインストールの実行<br>(標準ではネットワークインストール)                                   |
| <code>--interactive</code>   | 対話モードでの <b>OpenOffice.org</b> インストール                                                            |

例

```
./install --prefix=/opt
```

とすると、OpenOffice.org マルチユーザー/ネットワークインストールフェーズ 1 を /opt ディレクトリに対して実行します。



個々のユーザーはさらに **ワークステーションインストール** を行わなければ、OpenOffice.org を使えるようになりません。ただしユーザーが OpenOffice.org を最初の実行しようとする時点で、ワークステーションインストールが **自動的に開始** されます。

## Unix でのプリンタ、ファックス、およびフォントのセットアップ

Unix 上ではプリンタアドミニストレーションプログラム **spadmin** が提供され、OpenOffice.org で使用するプリンタ、ファックス、およびフォントの設定を支援します。

プリンタアドミニストレーションプログラム **spadmin** は以下のように呼び出します。

- OpenOffice.org1.0/program ディレクトリに移動します。
- 次のように入力します。

```
./spadmin
```

開始すると、すべての大切な設定が行なえるプリンタアドミニストレーションプログラム **spadmin** のウィンドウが表示されます。

ネットワークインストールでは、まず **システム管理者** が **root** ユーザーとしてシステムにログインし、プリンタアドミニストレーションプログラム **spadmin** を呼び出します。システム管理者はそこですべてのユーザー用に一般的なプリンタ環境設定ファイル **OpenOffice.org1.0/share/psprint/psprint.conf** を作成します。すべての変更は **OpenOffice.org** のすべてのユーザーがすぐに使用できます。

システム管理者は、ネットワークインストールのすべてのユーザー用にフォントの追加もできます。但しこれらのフォントは **OpenOffice.org** を再起動させてからでしか使用できません。

## プリンタの設定

Unix 上で OpenOffice.org が直接サポートしているのは PostScript プリンタのみです。ほかのプリンタは **OpenOffice.org のプリンタドライバ** の節で説明するように設定する必要があります。OpenOffice.org は、それぞれのシステムキューのプリンタに対して標準ドライバを自動的に用意します。必要に応じて、その他のプリンタを追加することもできます。

### プリンタの追加

1. **新しいプリンタ** ボタンをクリックします。
2. オプション **プリンタの追加** を選択して **次へ** ボタンをクリックします。
3. プリンタに合ったドライバを選択します。PostScript プリンタを使用しない場合、あるいは使用しているプリンタ機種が表示されていない場合は、「**Generic Printer**」ドライバを使用するか、あるいは以下のようにします。ここでは、**インポート** ボタンで新しいドライバを追加したり、**削除** ボタンで必要のないドライバを削除することもできます（詳細は下記参照）。それから **次へ** ボタンをクリックします。
4. お使いのプリンタでの印刷に用いるコマンド行を選択します(例えば `lp -d my_queue`)。そして **次へ** ボタンをクリックします。
5. プリンタに名前を付けて標準プリンタにするかしないかを指定します。それから **完了** ボタンをクリックします。
6. **印字テスト** をクリックして印字テストを印刷します。印字テストが印刷されない場合、あるいは正しく印刷されない場合は、すべての設定が **プリンタ設定の変更** で説明しているようになっているか確認してください。

これで新しいプリンタが OpenOffice.org で使用できます。

## OpenOffice.org のプリンタドライバ

- **PostScript** が使用できないプリンタのインストールでは、**PostScript** をプリンタ言語に変換できるようにシステムを設定する必要があります。**Ghostscript** (<http://www.cs.wisc.edu/~ghost/>) などのよく使われている **PostScript** 変換ソフトウェアの使用をおすすめします。

このようなときは「**Generic Printer**」(汎用プリンタ)をインストールします。ページ余白の設定が正しいかどうかも確認してください。これに関する説明は次の節にあります。

- **PostScript** の使用が可能なプリンタであれば、このプリンタに合った記述ファイル (**PostScript Printer Definition - PPD**) をインストールします。これで用紙トレイの選択や、両面印刷(プリンタがサポートしていれば)や組み込まれたフォントの使用も可能です。汎用プリンタドライバを使用することも可能です。なぜならこのドライバはもっとも重要なデータを含み、ほとんどのプリンタに適しているからです。この場合は用紙トレイの選択はできませんし、またページ余白を正しく設定する必要があります。

いくつかの **PPD** ファイルは標準でインストールされています。ご使用のプリンタに適した **PPD** ファイルがインストールされていないときは、

<http://www.adobe.com/products/printerdrivers/> でさまざまな **PPD** ファイルが見つかります。プリンタ製造元に **PPD** ファイルについて問い合わせることも可能です。適切なドライバを解凍し、**spadmin** でお使いのシステムに接続します。

ドライバは新しいプリンタを設定するときにインポートあるいは削除できます。

- 新しいドライバをインポートするにはドライバ選択ダイアログで **インポート** を選択します。**検索** で **PPD** ファイルを解凍したディレクトリを選択します。**ドライバの選択** リストボックスでインストールするプリンタドライバを選択してから **OK** をクリックします。
- プリンタドライバを削除するには、そのプリンタドライバを選択し **削除** ボタンをクリックします。汎用プリンタドライバを削除しないように注意してください。またネットワークインストールから削除したドライバは同じネットワークインストールを使用するほかのユーザーも使用できなくなりますから、十分にご注意ください。

- 使用するプリンタに、通常の標準 **PostScript** フォントだけでなくその他のフォントも設定されている場合、この追加フォント用の **AFM** ファイルを読み込む必要もあります。OpenOffice.org インストール先のディレクトリ **OpenOffice.org1.0/share/psprint/fontmetric** に、またはユーザーインストールの場合はディレクトリ **OpenOffice.org1.0/user/psprint/fontmetric** に、**AFM** ファイルをコピーします。AFM ファイルは <ftp://ftp.adobe.com/pub/adobe/type/win/all/afmfiles/> などにあります。

## プリンタ設定の変更

プリンタアドミニストレーションプログラム **spadmin** で **インストールされているプリンタ** のリストボックスからプリンタを選択し、**プロパティ** をクリックします。複数の見出しのある **プロパティ** ダイアログが表示されます。ここで選択したプリンタの **PPD** ファイルで使用可能な設定を行います。

- 見出し **コマンド** で、コマンドを選択します。必要のないコマンドは、**削除** ボタンでリストから削除します。
- **用紙** の見出しでは、このプリンタの標準使用時の用紙サイズや用紙トレイなどが設定できます。
- **デバイス** の見出しで、使用するプリンタ専用のオプションを選択します。白黒印刷のみ可能なプリンタでは **色** で「グレースケール」を設定し、そうでなければ「色」を設定します。グレースケールで印刷結果がよくなければ、**色** で「色」を選択してプリンタまたは **PostScript** エミュレータがどのように処理するか試してみてください。そのほかにもこの見出しでは色の精度や **PostScript** レベルも設定できます。
- 見出し **フォントの置換** で、お使いのコンピュータにインストールされている各種のフォントに対して、プリンタが持っている印刷フォントを選択できます。これによりプリンタに転送するデータ量を減らすことができます。フォントの置換はプリンタごとにオン/オフの切り替えができます。
- また汎用プリンタ使用の際は、見出し **その他の設定** でページ余白を正しく設定して、印刷範囲の端が切れないようにする必要があります。そのほかにもコメント欄に説明を入力して **印刷** ダイアログでそれを表示させることもできます。

これらの設定のいくつかは OpenOffice.org の **印刷** ダイアログまたは **プリンタの設定** ダイアログの **プロパティ** ボタンを使うとドキュメントごとあるいはプリントアウトするたびに設定できます。

## プリンタの名前の変更あるいは削除

- ・ **インストールされているプリンタ** のリストボックスからプリンタを選択します。
- ・ 選択したプリンタの名前を変更するには **名前の変更** ボタンをクリックします。表示されたダイアログで適切な名前を入力して **OK** をクリックします。この際プリンタと使用目的がはっきりとわかるような名前を付けておきます。プリンタの名前はすべてのユーザーが同じ名前で使えるようにしておきます。これはドキュメントを交換する際に、選択したプリンタが受信者側で同じ名前で見つかるようにするためです。
- ・ 選択したプリンタを削除するには **削除** をクリックします。標準プリンタ、またはネットワークインストールでシステム管理者が接続設定したプリンタは、このダイアログでは削除できません。

## 標準プリンタの選択

- ・ **インストールされているプリンタ** のリストボックスで選択したプリンタを標準プリンタとして通常使うには、そのプリンタ名をダブルクリックするか、**標準** ボタンをクリックするかします。

## ファックス機能の使用

コンピュータ上に Efax や HylaFax などの Fax パッケージがインストールされているときは、OpenOffice.org から Fax 送信ができます。

1. **新しいプリンタ** をクリックすれば、**プリンタの追加** ダイアログが開きます。
2. **Fax 機の設置** を選択します。**次へ** をクリックします。
3. 標準ドライバを使用するか、あるいは他のプリンタドライバを使用するかを選択します。**次へ** をクリックします。標準ドライバを使用しない場合、適切なドライバを選択し、**次へ** をクリックします。

4. 次のダイアログで、使用するファックスのコマンド行を入力します。ファックスを送信するたびに、コマンド行の「(TMP)」が一時ファイルに、「(PHONE)」が受信ファックス機の電話番号に置換されます。コマンド行に「(TMP)」がある場合、**PostScript** コードをファイルで渡しますが、そうでなければ標準入力を通じて(つまりパイプとして)渡します。**次へ** をクリックします。
5. 新しいファックスプリンタに名前を付け、テキストで記される電話番号(下記参照)を印刷するかどうかを指定します。**完了** をクリックします。

これで、設定されたプリンタへ印刷すればファックスを送れます。

ドキュメントで、ファックス番号をテキストとして入力します。現在のデータベースからファックス番号を読み込むフィールドも入力できます。いずれの場合にも、ファックス番号には、最初に記号 @@# を、最後に記号 @@ を付ける必要があります。たとえば、@@#1234567@@ というように入力します。

電話番号を含むこの文字を印刷しない場合、見出し **コマンド** の **プロパティ** で、**Fax 番号をアウトプットから削除** を選択します。ドキュメント内に電話番号を入力しないと、印刷後のダイアログで照会してきます。

OpenOffice.org では、標準ファックスへの送信ボタンを使用可能にできます。そのためにはファンクションバーを右クリックし、ドロップダウンメニューで、**表示されているアイコン** サブメニューを開き、**標準 Fax の送信** ボタンをクリックしてください。このボタンがクリックされた時に使用されるファックスは、**ツール** → **オプション** → **文書ドキュメント** → **印刷** で設定できます。

ファックスごとに個別の印刷ジョブを作成しないと、初めの受信者がすべてのファックスを受信することになってしまいます。**ファイル** → **差し込み印刷** ダイアログで、**プリンタへ** オプションを選択し、**個別印刷ジョブの作成** のフィールドを選択します。

## PDF コンバータ対応 PostScript インタプリタの接続

Ghostscript や Adobe Acrobat Distiller(TM)などの PDF コンバータ対応の機能を持つ PostScript インタプリタがお使いのコンピュータにインストールされているときは、OpenOffice.org で PDF ドキュメントをすばやく作成できます。

1. **新しいプリンタ** をクリックして、**プリンタの追加** ダイアログを開きます。
2. **PDF コンバータの設置** を選択します。**次へ** をクリックします。
3. 標準ドライバを使用するか、「Acrobat Distiller」を使用するか、あるいは他のプリンタドライバを使用するかを選択します。**次へ** をクリックします。標準ドライバや「Acrobat Distiller」を使用しない場合、適切なドライバを選択し、**次へ** をクリックします。
4. それに続くダイアログで **PostScript->PDF** コンバータを呼び出すコマンド行を入力します。また作成した PDF ファイルを保存するディレクトリもそこで指定します。ディレクトリの指定がなければ、ユーザーのホームディレクトリが使用されます。PDF ドキュメントが生成されるたびに、コマンド行の「(TMP)」が一時ファイルに、「(OUTFILE)」がターゲットファイルに置換されます。コマンド行に「(TMP)」があるときは **PostScript** コードをファイルで渡しますが、そうでなければ標準入力を通じて(つまりパイプとして)渡します。**Ghostscript** または **Adobe Acrobat Distiller** が検索パスにあれば、初期設定されたコマンド行が使用できます。**次へ** をクリックします。
5. 新しい PDF コンバータに名前を付けます。**完了** をクリックします。

今後、今設定したコンバータに印刷することによって PDF ドキュメントを作成できます。



## フォントの設定

OpenOffice.org で作業していて、ドキュメントの種類によってフォントの数が異なっていることにすでにお気づきかもしれません。これはすべてのフォントがいつでも使用できるとは限らないからです。

- 文書ドキュメントの場合、作成したドキュメントを印刷することを前提としているため、フォント選択ボックスには印刷が可能なフォントしか表示されません。
- HTML ドキュメントあるいはオンラインレイアウトでは、画面上で使用できるフォントしか表示されません。
- それとは異なり、表計算ドキュメントおよび図形描画ドキュメントは、印刷可能であるか、または画面表示可能なすべてのフォントが使用できます。

OpenOffice.org は、プリントアウト結果と一致する表示を画面上で試みます (WYSIWYG)。そのフォントの種類を使用した際に生じる可能性がある問題が、**書式** → **文字** ダイアログの下端に表示されます。

## フォントの追加

その他のフォントを OpenOffice.org に統合することも可能です。統合したフォントは OpenOffice.org でのみ使用でき、さまざまな X サーバーで、そのサーバーにインストールすることなしに使用できます。これらのフォントをほかのプログラムでも使用するには、通常どおりにそのフォントを X サーバーに追加してください。OpenOffice.org では PostScript Type1 フォントや TrueType フォント (TrueType Collections も含む) の表示も印刷も可能です。

以下のようにして、他のフォントを OpenOffice.org に追加します。

1. Spadmin を開始します。
2. **フォント** ボタンをクリックします。
3. 表示されたダイアログに、OpenOffice.org に追加したすべてのフォントが表示されます。選択したフォントを **削除** ボタンで削除したり、新しいフォントを **追加** ボタンで追加できます。
4. **追加** ボタンをクリックします。**フォントの追加** ダイアログが表示されます。

5. フォントを追加する元のディレクトリを入力します。... ボタンをクリックしてパス選択ダイアログでディレクトリを選択するか、あるいは、そのディレクトリを直接入力します。
6. このディレクトリに入っているフォントのリストが表示されます。追加するフォントを選択します。すべてのフォントを追加する場合は、**すべて選択** ボタンをクリックします。
7. フォントを **OpenOffice.org** ディレクトリにコピーするか、シンボリックリンクだけをそこに生成するかを、チェックボックス **追加時にソフトリンクのみ格納** で指定できます。**CD - ROM** のような常時使用可能とは限らないデータ媒体上に追加フォントがある場合などはフォントをコピーする必要があります。
8. **OK** ボタンをクリックすると、フォントが追加されます。

ネットワークインストールされている場合、可能ならばフォントはそこへインストールされます。ユーザーに書き込み権限がなければ、フォントはユーザーインストールへインストールされ、インストールしたユーザーのみがそのフォントにアクセスできます。

## フォントの削除

フォントを削除する場合、以下のように行います。

1. **Spadmin** を開始します。
2. **フォント** ボタンをクリックします。
3. 表示されたダイアログに、**OpenOffice.org** に追加したすべてのフォントが表示されます。削除するフォントを選択し、**削除** ボタンをクリックします。

**OpenOffice.org** に追加したフォントしか削除できません。

## フォントの名前の変更

OpenOffice.org に追加したフォントの名前が変更できます。これは、たとえば英語名と日本語名というように複数のローカル化した名前が付いているフォントで役に立ちます。また読みづらい名前の付いたフォントがあるときも適切な名前で置換できます。

1. Spadmin を開始します。
2. **フォント** ボタンをクリックします。
3. 名前を変更するフォントを選択し、**名前の変更** ボタンをクリックします。
4. 表示されたダイアログに新しい名前を入力します。フォントにいくつもの名前が付いているときは、新しい名前を入力するコンボボックスにこれらが候補として現れます。
5. **OK** ボタンをクリックします。

名前の変更に複数のフォントを選択すると、選択したフォントごとに一つずつダイアログが表示されます。

TrueType Collection(TTC)を選択したときは、その中に含まれるフォントごとに一つずつダイアログが表示されます。

# Solaris(tm) オペレーティング環境でのパッチのインストール

正しくインストールするためには 9 ページのシステム要件の章に記載されているシステムパッチをインストールする必要があります。システムパッチのインストールは以下のパッチ例 #106327-08 で説明する手順で行います。この例ではたとえば <http://sunsolve.sun.com> からダウンロードしたパッチが 106327-08.zip ファイルに圧縮されていることを前提に説明しています。

1. ルート権限を使ってシステムにログインします。

```
su -
```

2. 圧縮されたパッチファイルを解凍するために一時ディレクトリを作成します。  
例) **/tmp/patches**

```
mkdir /tmp/patches
```

3. 圧縮されたパッチファイルをこのディレクトリにコピーしてそこで解凍します。

```
unzip 106327-08.zip
```

4. **patchadd** コマンドを使ってパッチをインストールします。

```
patchadd 106327-08
```

5. パッチのインストールが正常に完了したら、一時ディレクトリを削除します。

```
rm -rf /tmp/patches
```



---

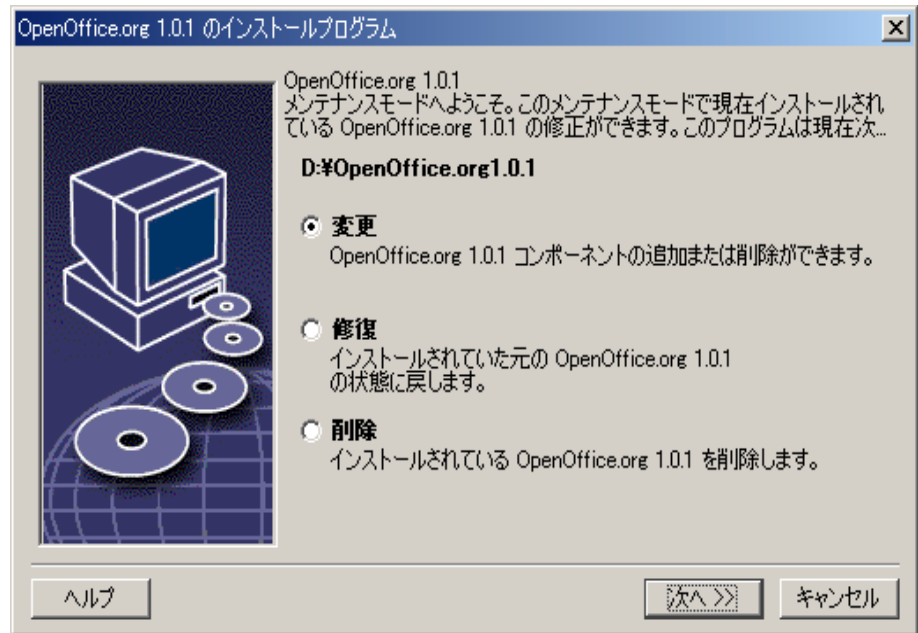
すでにシステムにインストールされているパッチの一覧を表示するには **showrev -p** あるいは **patchadd -p** コマンドを使用します。**patchrm** コマンドではパッチのインストールの削除ができます。

---

# OpenOffice.org のインストールの変更

OpenOffice.org をインストールしたあとでもう一度セットアッププログラムを呼び出すと、ダイアログが現れ、既存のインストールの変更、修復、または削除ができます。

セットアッププログラムはインストールディレクトリからも呼び出せます。インストールされている OpenOffice.org をセットアッププログラムが認識すると、ハードディスク上にあるバージョンの修復などオプションの選択ができます。



## 変更

ダイアログで **変更** を選択すると、ユーザー操作のインストールと同じダイアログが開き、追加または削除する OpenOffice.org コンポーネントが選択できます。

インストールされていない OpenOffice.org コンポーネントは灰色のシンボルで示されます。灰色のシンボルをクリックすると色が濃くなり、そのコンポーネントが追加インストールされることを示します。

インストール済みのコンポーネントは濃い色のシンボルで表示されます。濃い色のシンボルをクリックすると赤色のマークがつき、そのコンポーネントがインストールから削除されることを示します。

コンポーネントの項目の前にあるプラス記号は、下にコンポーネントグループがあることを示します。グループ全体を見るにはプラス記号をクリックします。すると個々のコンポーネントが選択して追加または削除ができます。



---

画像フィルタは「オプションのコンポーネント」を開いた下位リストの中にあります。

---

## 修復

システムレジストリのエントリが不正になったときは、**OpenOffice.org** のセットアッププログラムにある **修復** オプションを使って **OpenOffice.org** を修復します。誤って削除したプログラムファイルの復元を試みます。

## 削除

インストールの削除（アンインストール）を行うと、オペレーティングシステムのレジストリにある **OpenOffice.org** のエントリと、前の段落で説明したファイルが削除されます。**OpenOffice.org** ディレクトリにあるほとんどのファイルやフォルダが削除されますが、インストール後にユーザーが作成または変更したものと、セットアッププログラムに必要なものは残ります。ユーザーのドキュメントや設定の大半もそのまま残ります。**Windows** では **OpenOffice.org** のフォルダに作成したファイルも同時に削除するかどうか、チェックボックスで選択できます。



---

**Windows** で削除されずに残ったプログラムファイルがあるときは、オペレーティングシステムを再起動させた後に直接削除してください。

---

ネットワーク上のサーバーインストールを削除するには、サーバー上の **OpenOffice.org** フォルダを完全に削除します。この操作を行うと、すべてのユーザーインストールも機能なくなります。

# セットアップパラメータ

セットアッププログラムをパラメータ **-repair** で呼び出すと、ダイアログの表示なしで **OpenOffice.org** の修復を開始します。

パラメータ **-net** または **-n** を使うと、ネットワークインストールのサーバーの部分を開始します。

**-D:destination\_path** のパラメータは「**destination\_path**」で **OpenOffice.org** をインストールするパスを引き渡します。

**-F:application\_name** のパラメータは「**application\_name**」でセットアップ直後に起動するアプリケーションの名前を引き渡します。